

# ITS、セカンドステージへ



高度情報化研究センター 高度道路交通システム研究室長 喜安 和秀

## 1. はじめに

カーナビやETC、VICSが普及し、その社会的効果があらわれはじめるなど、ITSは「先端・流行」から社会的課題の解決に向けたセカンドステージを迎えています。このような状況を踏まえ、2004年8月にスマートウェイ推進会議（委員長 豊田章一郎(社)日本経済団体連合会名誉会長）よりスマートなモビリティ社会の実現を目指した提言「ITS、セカンドステージへ」（以下、提言とする）が示されました。また、2004年10月に名古屋で開催された第11回ITS世界会議は、世界に向けてセカンドステージの情報発信を行う絶好の機会となりました。

## 2. スマートウェイの目指すもの

「スマートウェイ」とは、多様なITSサービスを汎用的に実現させる共通基盤（プラットフォーム）として機能すべく、先端的なITS技術を組み込んだ高度な道路交通の受け皿となる次世代の道路のことです。提言では、スマートウェイのゴールとして、移動・交通の質の向上によって、「負の遺産（交通事故・渋滞など）の精算」、「高齢者のモビリティ確保」、「豊かな生活・地域社会」、「ビジネス環境の改善」の実現を目指しています。具体的には、

- ・2007年に一つの車載器（ITS車載器）で多様なサービスを一括して利用できるようにすること

- ・歩行者の携帯端末や家庭のパソコンなどとの連携も進め、車内のみならず、シームレスな情報環境を構築すること
- ・路車協調による安全確保のための警告や車両制御についても研究開発を進め、早期にサービスを開始することが望ましいとしています。

## 3. 国総研の取り組み

提言では、2007年に本格サービスを開始するため、2005年までに共同研究を行うと共に関連する規格・仕様を策定し、2006年よりインフラ整備・ITS車載器の製造等を行うこととしています（図-1）。これを踏まえ、国総研では2004年12月～2005年1月に参加者を公募し、2005年2月より「次世代道路サービス提供システムに関する共同研究」を実施しています。

具体的には、現在、急速に普及しているETCを含む官民の様々なITSサービスのうち、新たな道路サービスを実現する上で必要となる路側機の機能や、車載器の機能等を検討し、今後実用化するにあたり共通に定めるべき規格・仕様を策定する際に必要となる技術資料を作成することとしています。ここで対象としている主なサービスは図-2に示す3つです。

国総研では、引き続き本共同研究を推進するとともに、スマートウェイ実現に係わる各種研究開発に積極的に取り組んでいくこととしています。

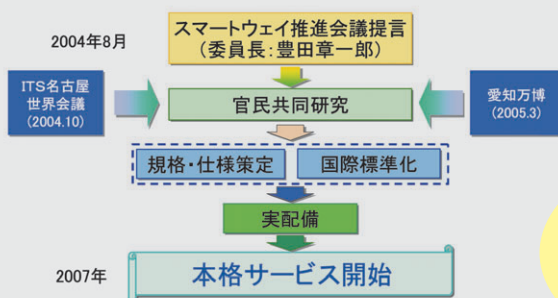


図-1 スマートウェイの展開に向けた取り組み  
スマートウェイ推進会議資料より



図-2 共同研究で対象としている主なサービス